

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502546		
法人名	サッポロ・ライフケア(株)		
事業所名	グループホーム 虹の家白石		
所在地	札幌市白石区平和通11丁目北3番14号		
自己評価作成日	平成28年9月14日	評価結果市町村受理日	平成28年10月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=0170502546-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人のペースに合わせ個々に適した温かい介護を心掛けアットホームな雰囲気大切にしながら、最後まで心を込めて安心した生活ができるように支援させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム虹の家 白石」は、静かな住宅地に建っている1ユニットのホームである。建物の共用空間は全体的に広々としており、2階には食堂や団欒ができる畳敷きの居間があり、昔の懐かしい調度品に囲まれて寛げる家庭的な雰囲気づくりになっている。開設12年が経過する中で、利用者は自然や地域の人と触れ合いながら安心した暮らしが営まれている。町内会の文化祭や近くの白石神社祭りに参加したり、事業所のクリスマス会には町内会長の協力で、多数の住民の参加を得て一緒にお祝っている。夜間を想定した避難訓練では具体的な避難方法を職員間で確認し、町内会館を避難場所として協力を得ている。管理者は協力医療機関の訪問診療や訪問看護師と常に相談しながら看取りを継続して行っている。本人の意志を大切に看取りの希望時には、家族に経過が分かるような詳細な内容で、「看取りの指針」を、個人ごとに合わせて作成している。終末時には管理者も出勤して夜勤の職員が安心して業務が出来るように、職員全体で看取りケアを行い丁寧に温かな見送りをしている。職員は個々の看取りの経過などを学びながら質の高いケアを実践している。外出行事では利用者の重度化もあり、1名～数名の利用者の希望に沿って遠出する等、外出機会が充実している。事業所内でも起床や食事時間など利用者の状態や意向に沿って個別ケアを軸に対応し、利用者は麻雀、手芸、ゲーム、歌等を楽しんで過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2階の共用空間に一人ひとりの利用者様を支えていくことを掲げた理念を掲示している。	法人共通の運営理念のほか、事業所独自の介護理念4項目に「地域の自然や人とのふれあいを大切にしていくケア」という、地域密着型サービスの視点が盛り込まれている。看取りなどケアの中で理念に触れて話し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の文化祭に利用者も参加させて頂き、ホームのクリスマス会には町内会の有志の方々が参加して下さっている。また、散歩の時などには挨拶をさせて頂いている。	町内会行事や白石神社のお祭りに出かけている。事業所のクリスマス会に町内会長の協力を得て地域住民7～8人の参加があり、また麻雀が好きな利用者にはボランティアが来訪している。花火大会の際に近所の子供達に参加を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームを理解して頂く為にも見学は随時、いつでも受け入れている。また、ホーム以外のサービスについても説明をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、行事報告や利用者様、職員、ホームの状況などを報告し構成員の方々より、意見、要望を頂きサービス向上に活かせるよう努力している。	会議では行事等や避難訓練について報告し、意見交換の中でボランティアの導入につながっている。今回は「かかりつけ薬剤師について」のテーマで勉強会を行っている。家族にテーマを記載して会議案内を送ることもあるが意見などは特にはない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が今年度は区の管理者会議の副代表を務め、行政との協力関係を築いている。	事務的な事は本部が窓口になっているが、必要に応じて管理者は電話で申請内容等を確認している。生活保護担当者とは常に話し合い、利用者の暮らしや事例に沿って連携しながら解決している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はセンサーにより人の出入りを確認しているので日中は施錠していない。	(道)社会福祉協議会主催の虐待・身体拘束についての研修に参加した職員は、報告書等で内容を伝達している。身体拘束の具体的な禁止行為11項目を理解し、安全等を家族とも話し合い拘束をしないケアに努めている。日中は玄関のセンサーで確認し、利用者の言動に沿って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会に参加し、権利擁護の視点から虐待防止に努めている。		

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人がついている利用者様がおられる。自立支援も2名の方が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にもそれ以降も不安、疑問、理解しかねていることがあれば何度でも説明させて頂き、理解、納得をして頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置している。実際には直接管理者と話すことが多く、スタッフとも気軽に話し合っている。	家族の来訪時や本人に、どうして欲しいかを常に聴き、意向を介護計画に取り入れている。話し合った内容をスタッフノート等に記録しているが、今後は個別の記録化で些細な想いをも把握できるように、更に職員間での共有を考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を営業部長等に伝え、運営に反映するようにしている。	月1回カンファレンスを行い、介護計画を中心にケアの提案等で意見を交換している。会議で管理者は本部の通達を周知し、職員の処遇なども含めて本部と働きやすい環境に配慮している。業務の中で個人的に話し合い研修の受講も勧めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得が出来るように手配したり、資格取得により手当を上げるなど、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に出られるように機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が区や市の管理者連絡会に出られるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や要望を伺い、不安に思っている事に耳を傾け安心の確保につなげる。しっかりした信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、これまで困っていた事、今後の不安などをしっかり伺い、どうあってほしいかという要望に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のお話を伺うことにより必要な支援と、ホームで出来ること、他のサービス利用が望ましいのかを説明しご理解を得るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に様々な作業を行うことにより、共に生活している事を実感し、毎日を楽しく過せるように共に笑い、共に学び日々を暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された時には、ご本人の普段の状況をお話している。ご本人が喜んだり楽しそうにしていたことばかりではなく、困っている事なども普段の様子としてお話をさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みである友人、家族、職員の関係が途切れないように働きかけている。	近所で行き来していた友人の来訪など、馴染みの関係が継続できるように、利用者の状態に合わせて支援している。開設12年が経ち周囲が馴染みの環境になっており、コンビニでの買い物や近所の人とは顔馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレク、行事等に参加して頂き、楽しみを共有して頂いている。歌を聞いたり、テレビを見たりという時もお互いの距離感を大切にしながら支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方へお見舞いに行き、様子を伺ったり、亡くなった利用者様の家族に対して最後まで支援させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話だけでなく、職員全員が日々の生活を見守る中で利用者様の良い表情や態度を観察し、本人本位の生活をして頂けるよう努めている。	個別の対応時に想いを聞き出したり、意思疎通が難しい場合は声かけの反応から把握している。センター方式のシートを活用し、全員で気が付いたことを追記して現状の姿を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は生活暦等の話を聞いた際、記録に残して情報を共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が得た情報は記録したり、お互いに情報交換したりと職員全員が利用者様一人ひとり、どのように過ごされているか把握出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの時やケアカンファレンス等でモニタリングを行い、意見交換をし、利用者様やご家族の要望を確認しながら介護計画を見直している。	3ヵ月毎にカンファレンスで介護計画の目標、サービス内容に沿ってモニタリングを行い、更新計画を作成している。理解の可能な利用者には計画書で説明している。個人記録は利用者の言動や表情などを詳細に記録し、見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間チェックシートにて実践・結果をチェックし、気づきやその時々声掛けの仕方など個人記録に書き情報を共有し、介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お花見や紅葉見学、海など個別の希望にそって行っていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のボランティアの方に来て頂き、麻雀を行うようになった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療、月4回の訪問看護によって健康管理がされている他、体調に変化があった時には、その都度主治医に報告し、指示を頂き、必要があれば他医療機関に受診もしている。	利用開始時に受診先の意向を確認し、利用者の状態に合わせて2ヵ所の訪問診療を受けている。専門的な他科受診には事業所が対応している。個人ごとに往診や受診先などを分かり易く記録し、職員は経過を把握している。	

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護により相談などをし必要に応じて、かかりつけ医に看護師より話をして適切な対応を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医より入院先の病院へ情報提供をし、日常の状態は管理者が対応している。退院については早期退院できるように病院関係者、家族、利用者様と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を作成し、それに基づいて支援に取り組んでいる。	利用開始時に重度化への対応と看取りの考えを説明し同意を得ている。本人の意志を優先し、状態の変化時には関係者で方針を確認している。利用者の状態に沿って個々に「看取りの指針」を詳細に作成し、同意を得て看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、全職員が心構えを持てるようにしている。また、救命救急法の講習も受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の役割分担・連絡先を明記して掲示している。避難場所として近くの公園だけでなく、町内会館を利用して頂けるようにしている。年2回避難・消防訓練を行っている。	昨年は夜間を想定した火災避難訓練を2回実施しているが、消防署の都合もあり自主訓練になっている。地震や水害を想定した訓練は今後の課題になっている。職員救急救命訓練を定期的に行い、災害時の備蓄品類も整備している。	年に1回は消防署の指導の下に、住民の参加を得て避難訓練を行うことを期待したい。また火災以外の災害時を想定して自主訓練を行い、個々に必要なマニュアル整備にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには職員全員が意識をしながら行っている。個人記録も頭文字で記入している。	職員の言葉かけも優しく、介護計画は鍵付きのロッカーで保管、記録もスタッフルームにて記入し、プライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で判断できないような場合は、二者択一などで選択して頂く等の工夫をして出来るだけ個人の希望や好みに添えるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活のペースを考え、柔軟な対応が出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや朝のブラッシングなど身だしなみに気持ちがむく声掛けを行い、コミュニケーションを取りながら選んで頂いたり介助をしたりしている。		

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを考慮してメニューを考えたり、料理の下ごしらえなどで利用者様が一緒に活動できるように、お一人お一人に合わせた働きかけをしている。	外部委託業者から食材が届くが、行事や誕生会の場合はホームで用意し、正月やクリスマス等の季節の食材や誕生日の赤飯、夏場の素麺や鰻、パンバイキングなど楽しめる内容に変更している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった時間の水分とは別に希望やお手伝いの後などにコーヒーや紅茶、コーラなど提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に合わせてガーゼを使用したり、本人の力に応じ声掛けにより行って頂いたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、パット利用の方、車椅子の方もトイレ誘導し排泄して頂いている。夜間も各利用者様の排泄パターンに合わせて声掛けトイレ誘導させて頂いている。	自立している利用者も数名いるが、全員の排泄を記録してパターンを把握し声かけしながら、座位が保てる場合はトイレでの自然排泄を促している。整腸管理に下剤の服用の他、ヨーグルトやオリゴ糖を利用した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動をしたり、ヨーグルトやオリゴ糖を摂取して頂いたり便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回曜日を決めているが、その日の体調や気分により変更できるようにしている。	日曜以外の午後に順に3名程度、1人平均週2回の入浴をしている。浴室にはシャワーチェアその他、シャワー用車椅子もあり、手すりも多く安全に入浴ができる。基本同性介助で職員と会話をしながら寛げる入浴時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の表情や行動などから休息を促している。居室内の温度や湿度の調節をし、夜間も気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人で服薬できる方でも、確実に飲み込むまで見守りを行っている。内服変更の場合はノートに記入し確実に申し送り、症状の変化がないか観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や新聞たたみなど出来る事を行って頂いたり、歌を聞いたり、将棋、オセロ等ゲームをしている。		

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望もしくは声掛けでスーパーやコンビニなどへ買い物に出かけたり、天気の良い日は散歩に出たり家族の協力を得て、美容室に行ったりしている。	介護度の違いで全員揃っての外出が困難になってきたため個別の支援に重点を置き、日々の散歩の他、本人の気持ちに沿った外出支援をしている。海岸でのんびり寛いだり日帰り温泉や外食、紅葉や雪まつり見物、白石神社祭りなど、多様な外出支援を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や散歩の時には買い物ができるように支援させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の事情を考慮の上希望があれば対応している。年賀状を書く手伝いをしたり、家族からの手紙を手渡し、行き来を楽しんでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーで車椅子の方も安心して過して頂けるようになっている。日当たりの良い居間にはソファや畳、ピアノがありくつろげる空間を作っている。季節ごとの飾りつけも工夫している。	広い廊下や階段は両側に手摺りが取り付けられている。開放的で明るい居間やダイニングは綺麗に掃除が行き届いている。畳の共有スペースには長火鉢や茶筆筒など昔懐かしい物品を揃えている。季節の飾りや鉢植えの花で温かみを感じられる居心地のよい共有スペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間にソファを設置して、利用者様の好きな空間で過して頂いている。居間のソファに座り、数人でテレビを見たり、洗濯物を片付けたり自由に過している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を使用したり、使い勝手の良い家具を購入したり、写真や自分の好きな物を飾ったりしている。	カーテンと吊戸棚が設置されている居室には、利用者の使い慣れた物品を持ち込み、テレビや時計、家族の写真、ぬいぐるみ、自作の手芸作品などに囲まれ、安心して暮らせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭用エレベーターがあり下りた時にどこかが分かるように表示し、エレベーター内にも行き先を表示している。又、各お部屋には表札を付けてご自分のお部屋を分かるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 虹の家白石

作成日：平成 28年 10月 11日

市町村受理日：平成 28年 10月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の避難訓練の内1回も消防署の指導の下行っていない。また、火災以外の災害時における避難等の自主訓練を行っていない。災害時のマニュアルが画一的で整備されていない。	年に1度は消防署の指導の下、避難訓練を行う。災害時の訓練を行う。また、そのマニュアルの整備を行う。	消防署の参加が無理な場合は地域の消防団の協力をお願いする。災害時の訓練を机上訓練など出来る事から行っていくと共にマニュアルの整備も行う。	2年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。